

⑨日本国特許庁
公開特許公報

①特許出願公開
昭53-74795

⑩Int. Cl.³
A 61 F 13/20

属別記号

⑨日本分類
94 F 52

厅内登録番号
6537-35

⑩公開 昭和53年(1978)7月3日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑩タンポンアブリケータ

ツトナー・レーン・ハートシイ
ル30

⑩特 願 昭52-148937

リチャード・マロウズ

⑩出 願 昭52(1977)12月13日

イギリス国ノーザンブリッジ
・ラツシユデン・ウエストフ
ィールド・プレース18

優先権主張 ⑩1976年12月14日 ⑩イギリス国
(GB) ⑩152093/76

ユニリーバ・ナムローゼ・
ベンノートシャーブ

⑩発明者 ブライアン・ジェームス・ブル
ースター

オランダ国ロッテルダム・バー
ジミースターズ・ヤコブブレー
ン1

イギリス国ベッドフォード・ブ
ースター
イギリス国ベッドフォード・オ
ークレイ・レイネスドライブ18

⑩代理 人 弁理士 浅村皓 外3名

同

明 要 摘

1. 請求の名称

タンポンアブリケータ

2. 本発明請求の範囲

(1) 本請求の範囲と、本請求部分内に記載された入力子による本内筒部分とを併用するタンポンアブリケータにおいて、前記内筒部分が、異質するリップ間に内筒部を固定すると共に内筒の底に液体の長手方向の吸入を可能にする如く前記内筒部分に対して長手方向内筒ナインネルを形成する長手方向リップを有するととを併用とするアブリケータ。
(2) 前記内筒部分が、底面底端にロミニアを有し、前記管状内筒部分が、前記リップの内側の底端に沿うて内筒で外方にペルルにたり、これにより、前記2つの管状部分が、一様に後側にされると併用されるととを併用とする本発明請求の範囲内に記載のアブリケータ。
(3) 前記管状部分が、水分吸着性高分子から成り、前記リップがしわ付けされていることを併用とする本発明請求の範囲内に記載のアブリケータ。

アブリケータ。

(4) 前記管状部分が、水分吸着性高分子から成り、前記リップが異質されていることを併用とする本発明請求の範囲内に記載のアブリケータ。

3. 本発明の詳細な説明

本発明は、如きくは水分吸着性高分子、例えばガムで仕立てた丸丸形状の内筒を吸着するタンポンアブリケータ(アブリケータ)に関する。

タンポンアブリケータは周知であり、これでは、内筒管状部分と、内筒管状部分とが行き来合を形成して一様に入力子でなつてゐる。タンポンは、内筒管状部分内に吸着され、内筒管状部分は、タンポンを行出すアシヤとして作用する。

従来の構造では、2つの内筒間の行き来合部は、2つの部分の正確な關係を維持するには充分に強固でない内筒部分の剥離し失敗によるか、または入力子の内側の位置では内筒方向の突出し頭がアブリケータの内筒への延伸の途端にに対するシールを形成するため再発するのに問題を生じる。

と共に満たすのが困難な円周方向へ並びる構造により構成されている。

次に内側は、円柱しくは、水分吸収部から外側は、外側部分と、これら部分内に並びて入り子式となる内側部分とを備え、前記外側部分が、固定するリブ間に膨張部を固定すると共に内側の外周方向の段入を可能にする如く前記内側部分に對して外周方向内側アシヤンネルを形成する円周方向は外周方向に内側アシヤンネルを有するメンボンアブリケーノを提供する。

この構造では、2つの部分は、非常に密に入り子式になり、即ち、2つの部分のかなたか面倒にかたり外力的な力が混合が混在され、これは、入り子式部分の空気のフローを防止して内側の間に2つの部分間に隙間が混在するのを防ぐ。又つて、アブリケーノが入り子式に用意位置にある状態での水洗便器への内側の段、即ち、内側を固定する如くアブリケーノの端での部分に急速に倒れ込む。

また、長手方向リブは、便器内に膨張部を形成す

ると共に、外周方向に固定する機能を有する如くを示している。

円柱しくは、固定外側部分が、外周側部のリブを有し、前記外側内側部分が、前記リブの内側の段がはりその内側で外周へペル形になり、これにより、固定2つのアシヤンネルが、一様に固定される。

この構造に對して最も便利なそれは、前記の如く厚底であるが、メリピュールアルコール、強化メラミンの様な水分吸収性樹脂材料を使用してもよい。その他の便器材料は、入り子式の構造等の分離性が実質を要件でないとよく使用可視である。

長手方向リブを有する部分は、例えば、厚底が使用されるときには、スエーリング等にとろか、または樹脂材料が使用されるときには、皮脂によって表面に汚染される。

本発明の実施例に關し前記図を参照して下記に説明する。

又、第1、第2、第3図は、入り子式便器の内側部

分とアブリケーノを形成する部分の構造部分の構成図を示す。第1図は、入り子式に並びた位置で内側部分2に並んで配置する第1、第2部材または第3部材に示す複数の外側部分1を示す。メンボンなど、引き落とすとは、このアブリケーノの2つの部分内に位置している。外側部分1は、長手方向リブ3を有してある(リブは、メノウでは3つあるが、メノウでは4つあり、メノウではリブはその端まで未広がりでせつてある)。第3部材を並用すると、これ等の長手方向リブは、内側部分2の端と共に外手方向凹部4を形成する。これ等の凹部間は、水洗便器または薬品使用便器へ接続する端にアブリケーノの内側に並んで入り子式の部分間に隙間が残れるのを有し、これにより、端での隙間部が速かに遮断する如く急速に倒れるのを可能にする。又、これ等の部分内に空気が捕捉されないことは、その浮力を発揚し、水洗便器にかけたフランジを固定する。外側部分1は、ひだ付けまたはスエーリングまたは射出成形の操作により第3長手方向リブなしし強出部5が形成された如くを有し

ている。又つて、3または4の半径方向に位置するショートは、部分1の内側へ一端的に挿入された適当な形状の内側部分ないしコアに對して長手方向リブの間の隙間を押圧する如く内側へは助する。

且ち第3部材は、長手方向の接觸ないしアシヤンネルを有すると共に、端口を把手部7を形成する。更に、これ等の把手部7の内側には、かなりな強度にわたる内側部分2の内側との間に接觸部分が形成される。これは、大抵の公知のアブリケーノよりも広い接触面積を形成し、その結果、一周強度が得られる。また、長手方向リブがちることは、正確な外力的で密な結合を保証するのに役立つ。それは、任意の箇所かた寸法実測が長手方向リブによる端子で決定されるからである。

第4図を参照すると、内側部分2の内側は、内側部分が使用する前に外側部分1から抜け出ないことを保証するため、外側部分内で外周へペル形の口を形成していることが認められる。また、外側部分1の反対側面部は、メンボン等が確実に保

がそれらのを嵌在すると共に嵌入部を改善するためには、僅かに内方へ向外している（長い内縫を有する袋又のメンボンに對比される）。

附加的内縫は、内方助部分へ直に嵌入し得る。これは、この部分との内縫を僅かに併ねてするか、または内方へ凹凹所を形成することである。これは、メンボンと嵌入部との間に生じる隙を如何なる限りの状態とも防止する。

以上実施例は、第1、第2及び示されている。この場合Kは、内角部分1は、第1図に示すものと並半円形に開口であるが僅かに深い袋又の内方へのしわ付けを有するしわ付けされた縫合を有し、第2図の内角部分の内縫が、内方へ併ねて形成している。又つて、把頭部Lは、一層凹んだ形状を有し、即ち、頭の形状は一層凹に適合する。この凹進口部の形状は、内角部分2が内角部分を形成する如く開口部がしわ付けされ（第4図参照）入れ子式K及びL位置で組立体を一層突起に位置決めることをせり、2つの部分の組立て時にしわ付けを逐一执行して実施し得る即ちメンボンアダ

リケータの組立操作を上でも及立つことである。これに對して、既にの如れば、この手KとLにて組立される。

上述の実施例では、アダは、内角直分1の内方へたびている。本実施の異なる場合は、アダは内方へはび、この場合Kは、これ等のアダは、内角部分の内縫と形成し、又リブMの領域は、該体の内縫を形成する。

4. 図面の簡単な説明

第1図は2つの長手方向リブを有する内角直分の組立図、第2図は2つの長手方向リブを有する内角直分の組立図、第3図は2つの長手方向リブと別の内角部とを有する内角直分の組立図、アダは先端に組立てられたメンボンとアダリケータとの接合部図、第4図は向上的Y-Y断面図、第5図は即ち天端外の組立てられたアダリケータの部分断面図、第6図は向上的Y-Y断面図を示す。

1. 第一内角、内角部分、

2. 長手方向リブ、

3. 長手方向テヤンネル、
4. 把頭部。

代理人 池村 由
内角名

